

教育目標	○学びあう子(本年度重点目標) 助けあう子 きたえあう子	
学校経営の基本理念	目指す学校像	教師の基本姿勢
「関わりの中で高め合う児童の育成」 一人一人の子供たちに、「自立」と、「自 律」の力を身に付けさせ、相互依存でない、 真に『学びあい、助けあい、きたえあう』子 供たちを育てていく。そして、そのために教 職員自らが互いに切磋琢磨し、子供たちと共 に高め合う集団となる。	(1) 児童が目を見せかして登校し、真剣に学び合い、友だちや 先生と仲良く元氣いっぱい過ごす笑顔あふれる学校《子供の 姿》 (2) 全教職員が教育公務員としての自覚と使命感、誇りをもち、 共通の目的に向かって、創造的に協働し、互いに切磋琢磨 して人間性と専門性を磨き合う学校《教職員の姿》 (3) 保護者や地域社会との相互理解、連携を図り、学校のもつ 教育力を家庭・地域社会のために積極的に生かし、共に子ど もを見守り、育てていく学校《保護者・地域からみた学校の 姿》	(1) 子供の世界や感性を尊重する。 (2) 授業力の向上を常にめざす。 (3) 指導の基本を大切にし、全教員で徹底する。 (4) 信頼ある開かれた学校づくりに努める。 (5) 意識の変化に対応できる学校づくりに努める。 (6) 今あるものを常に見直し、改善につなげる組織となる。

◇ 専科教員を含め全教員で取り組む ■ 全教員で取り組むが成果確認は担任が行う 無印 担任が取り組む

領域	中期経営目標(かつ この数字は経営方 針の番号)	短期経営目標	目標達成のための方策	成果指標	5月	10月	2月	成果確認方法				
学びあう子「確かな学力の向上(本年度重点目標)」	○教員の指導力向上(②)	①◇返事をし、「です」「ます」「思います」「からです」など、語尾までしっかりと言ったことのできる児童を育成する。	○ 語型を各学級で掲示し、返事から発言の最後まで、はっきりと話すことができるよう指導していくとともに、教師が最後まで聞かせる。 ○ 学年の発達段階に応じて、語型を増やしていくとともに自身の考えを適切に表現できるように指導する。 ○ 教員が返事をする見本を示すとともに、全校朝会等で呼名された際に返事をしよう各学級において指導を行うとともに、返事をした児童を称賛し、行動の価値付けを行う。	A 身に付いた児童が、80%以上 B 身に付いた児童が、65%以上～80%未満 C 身に付いた児童の増加が65%未満	/	/	/	教師の観察による評価				
		②◇自分の考えをもち、それをはっきりと伝えることのできる児童を育成する。	○ 考えを形成するために必要な基礎的・基本的な指導事項の定着を図る。 ○ 発問を工夫し、全員が挙手できるような場面を授業に取り入れるとともに、児童が考えるための時間を十分に確保できるような授業計画を行う。 ○ 児童の発言を教師が価値付けすることで、児童が発言したことに対する達成感をもつことができるようにする。 ○ 発達段階に応じた基礎的な話し方に従って、話すことができるように国語科を中心に指導を行う。 ○ 児童がお互いの意見を傾聴する態度を育成する。	A 音声言語によって発言できている児童が70%以上 自分の考えを伝えられたと感じている児童が70%以上 B 音声言語によって発言できている児童が50～70% 自分の考えを伝えられたと感じている児童が50～70% C 音声言語によって発言できている児童が50%未満 自分の考えを伝えられたと感じている児童が50%未満					教師の児童観察による評価 アンケートによる児童の自己評価			
		③学年配当の漢字の読み書きと基本的な計算の仕方をも身に付けた児童を育成する。	○ ベーシックドリル等を活用しながら、前学年までに配当されている漢字の読み書き、計算の練習をさせる。 ○ 漢字の読み・筆順・熟読の確認・繰り返し書き取り練習を毎日取り入れ継続する。 ○ 算数科において、習熟度学習を進める中で、基礎的・基本的な計算の仕方定着させる。	A 国語・算数の平均正答率が、それぞれ85%以上 B 国語・算数の平均正答率が、それぞれ80%以上 C 国語・算数の平均正答率のいずれかが80%未満						国語 81.0% 算数 71.4%	教師の観察による評価	
		④◇算数科を中心として問題解決型の学習指導を行い、「自分の考えを発表できる児童を育成する」【低学年】、「多様な考えを説明できる児童を育成する」【中学年】、「問題に合った考えを選べる児童を育成する」【高学年】、「自分の考えを伝えられる児童を育成する」【専科・つくし】	○ 考えを形成するために必要な基礎的・基本的な指導事項の定着を図る。 ○ 児童が主体的に学ぶことができるように、活動の見通しや結果の見通し、方法の見通しをもたせる手立てを授業に取り入れる。 ○ 対話を通して、学びを広げ深めることができるように、発達段階や習熟の度合いに応じた、考えを伝え合う場を設定する。 ○ 児童同士の考えを比較検討する場を設定し、共通点や相違点に着目させる中で、問題の解決に最も効果的な考え方について検討する授業を計画する。	A 教師設定基準を達成した児童が10%以上の増加 B 教師設定基準を達成した児童が5～10%増加 C 教師設定基準を達成した児童が15%未満の増加								ノート分析による教員評価
助けあう子「豊かな心の育成」	⑤◇相手に対する思いやりと親切心をもたせ、いじめや不登校のない学校をつくる。	○年3回「ふれあい月間(いじめ防止)アンケート」を実施し、聞き取りを丁寧に行い、全職員で未然防止・早期発見に努める。 ○人権月間に、ビデオ・DVD教材を活用し、自分や他の命を大切にしようとする児童の態度を育む。 ○5年全員とスクールカウンセラーの面談・給食交流を実施する。また、年度当初に「心のアンケート」を実施し、児童理解に努めるなど、相談しやすい環境を整える。 ○「わたしの行動宣言」を各学級で話し合い、いじめのない学級にしようとする態度を育む。	A いじめをしない児童が100% B いじめをしない児童が90%以上 C いじめをしない児童が90%未満	/	/	/	児童観察・聞き取りによる教員評価 学期ごとに実施するふれあい月間アンケートによる児童の自己評価					
	⑥◇自分を大切に、自分に自信がもてる児童を育成する	○「自尊感情アンケート」を実施し、結果をもとに個々にあった自信の持ち方を教職員全員で共有する。また、「道徳」の時間を中心に、自尊感情や自己肯定感を育む。 ○児童の表現活動(文章・発表・作品・演奏・身体等)を交流する場を設け、友達の良さを伝え認め合い、互いを大切にしようとする態度を育む。 ○日頃から、保護者と密に連絡を取り合い、児童の良さやつまききを共有し、児童に自信をもたせるようにする。	A 自己受容評価1点台の児童が0% B 自己受容評価1点台の児童が1～15% C 自己受容評価1点台の児童が15%以上					3.0%	/			
	⑦◇すれ違った先生や外部の方に、適切な(明確な声・一度あいさつした人には黙礼など)挨拶ができる児童を育成する。	○各学級で年間として取り組む「あいさつ宣言」を決め、めあてを明確化して進んであいさつをする児童の育成に努める。 ○6年生のあいさつ当番活動を活発にし、全校児童の手本となるように育む。 ○相手に聞こえる声で、はっきりとした言葉であいさつをしたり、黙礼したり、場に応じたあいさつができるよう育む。	A 95%の児童が身についている。 B 90%の児童が身についている。 C 身についている児童が90%未満							/	/	
鍛え合う子「たくましい体の育成」	○基礎的な体力の向上に努める児童を育成する。 ○心身の健康づくりに努める児童の育成(③)	⑨基礎的な体力の向上に努める児童を育成する。	○年間12回、木曜日の中休みに「ワークアップ」を設定し、クラスごとに、体力向上を図るための運動に、順次取り組ませる。 ○体育委員会による「ワークアップ」を学期に1回以上開催し、体力向上を図った運動を、ゲーム感覚で楽しみながら行う。 ○各クラスで1年間を通して行える体育的活動を「一学級一実践」として、設定する。 ○持久力を高めるために、「くにごステップ」をワークアップの前に取り入れる。 ○保健だよりにて、早寝早起き朝ごはんなどの大切さを伝え、保護者への意欲啓発を行う。 ○中休み、昼休みのどちらかは外遊びをさせるようにする。	A 休み時間に外遊びをする児童が85%以上 B 休み時間に外遊びをする児童80%以上 C 休み時間に外遊びをする児童80%未満	88.0%	/	/					毎学期、1週間チェックシートによる評価
		⑩「好き嫌い」をしないで、バランスのとれた食生活(給食)を送れる児童を育成する。	○保健給食委員会や校長講話等で食の大切さについて話し、残菜減量についての意識啓発する。 ○給食指導目標を基に、各学級で声かけをし、残菜減量に向け声かけをする。 ○食育月間で、発達段階に応じた食育指導を行う。 ○児童の実態に応じた残菜減量のための活動を保健・給食委員会で取り組んでいく。	A 給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が85% B 給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が80%以上 C 給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が80%未満				94.0%	/			